



会場案内図



By googlemap

お知らせ

- ・会員の方は、議決権行使のためには総会まで(当日可)に会費を納入してください。
 - ・総会議案資料は、事前にホームページに掲載しますが、質問等は総会でお願いします。
 - ・総会出欠連絡を別紙の様式でメールまたはFAXをお願いします。
- なお、出欠連絡にかかわらず当日の出席、発言はできます。

フォーラム(現地意見交換会)

総会終了後、地元「沖之島環境保全会」の方から沖之島地区の環境保全について説明と質疑を行います。「沖之島環境保全会」は去る2月2日の2017グラウンドワーク&多面的機能支払活動サミット in 東海の場で多面的機能支払制度として事例発表された団体です。活動は沖之島公民館から七宝駅までの一帯で農業者・非農業者・自治会・子供会を始めとした多様な住民の参加で地域の環境保全活動を行っています。また、活動状況の共有により活動の継続性を図っています。多面的機能支払交付金という補助金を受けているという点でグラウンドワーク東海活動団体とは少し違った方式の活動ですが、お互いの活動にとって参考になるものです。

以下の画面は2月2日の発表画面の一部(沖之島環境保全会)の一部です。

① 協定面積	約 20 ha (田19 ha・畑1 ha)
② 組織	
1) 構成員数	1,150人(約650世帯) (内訳) 農業者 100人(約80世帯) 非農業者 1,050人
2) 構成団体	農業者・自治会・子供会・地区コミュニティー(※) ・ランドゴルフ、ソフトボール、カラオケ、神楽太鼓、自主防災、老人会等 ・ゴミゼロ、夏祭り、秋祭り、収穫祭など地域住民との交流が定着
③ 活動への参加人数・活動回数	・H19初年度より毎年延べ2,000人、年間の活動回数は約100回 ・除草作業の応援体制(プロジェクトチーム)

区分	紹介事例
1 景観形成のための植栽 ・農道、水路法面の補強と雑草対策	・いわだれ草の連続植栽 ・花壇の設置
2 生物の生息状況の把握 ・農業用水路での生きもの調査	・生態系調査・水質調査 (関係機関の応援) 小学校掲示板へ掲出
3 学校教育との連携	・もち米の栽培(稲作体験隊)
4 広報・啓発活動	・ゴミポイ捨て禁止ポスターの作成
5 農用地を活用した景観形成	・花ハスの栽培

愛知サマーセミナー講座募集

グラウンドワーク東海も昨年12コマの授業を開講し好評でした。今年は7月14日(土)~16日(月祝)椋山学園で開催。既に講座募集が始まっています。応募締切5月23日。テーマ自由、参加費無料です。活動団体の活動PRなど参加しましょう。相談がある場合は事務局へメールで。詳細は以下のURLから

<http://samasemi.net/index.html>

会員募集と会費納入のお願い

平成30年度会費の納入をお願いします。総会での議決権行使(協会員は議決権がありません)は会費納入済みであることが条件です。新規加入ご希望の方は以下の口座番号へ会費を納入してください。同封の請求書には昨年度と同額会費としてありますが会員区分変更などのご希望は事務局へメールでご連絡ください。

金融機関	口座番号	口座名義	会費
(振替用紙ご利用) 郵便局(ゆうちょ銀行)	00880-8-35758	NPO グラウンドワーク東海	個人正会員様 10,000円/年/口
郵便局(ゆうちょ銀行)	記号 12160 番号 45969591	特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海	個人協会員様 3,000円/年/口
三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部	店番 150 普通 番号 5759603	特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海	企業・活動団体様 事務局へメールでご確認ください

グラウンドワーク東海総会開催
「沖之島環境保全会」との現地意見交換会も

日時 六月九日(土)十三時三〇分
会場 愛知県あま市七宝町沖之島公民館(名鉄津島線「七宝駅」下車南へ徒歩一〇分)
フォーラム 十四時半から十六時半。同会場及び沖之島環境保全会活動現地にて開催

総会議題

- 1 平成二九年度事業報告
- 2 平成二九年度決算報告、監査報告
- 3 (報告)平成三〇年度事業計画案及び予算案
- 4 その他

参加募集

【総会】グラウンドワーク東海正会員、企業・団体会員、協会員
【フォーラム】右に加えて沖之島環境保全会の皆様、一般市民(総会傍聴歓迎)

※恒例の交流会はどなたでも歓迎です。会費など詳細企画書中

2017 グラウンドワーク & 多面的機能支払活動サミット in 東海

平成30年2月2日(金) NPO法人グラウンドワーク東海と愛知県農地水多面的機能推進協議会の共催(協賛:一般財団法人日本グラウンドワーク協会、後援:東海農政局)で開催された。よく似た現場・よく似た活動であるがグラウンドワーク活動と農地多面的機能活用活動との違いは何か?協し合える活動なのか?お互いの「??」の理解は進んだのか?「縁」をキーワードに質疑とともにまとめた。



基調講演

【アジサイの縁】

最初に「水土里ネット立梅用水」の高橋さんと「一般社団法人ふるさと屋」の石井さんから「立梅用水の多面的機能の活用と町づくり」と題した基調講演があった。立梅用水は江戸時代に開かれた三重県多気町を中心とした灌漑用水であるが、近年は少子高齢化、人口流出による減少に加え獣害の増加という中山間地域共通の課題がある。土地改良区はそのような地域の活性化のために“グラウンドワーク手法”とともに“農地の多面的機能支払制度”を用いてアジサイの里としての売り出し、地域問題対応の「NPO法人ふるさと屋」を設立し、交流人口の増加、老人見守り・獣害対策などに成果を上げているという。“グラウンドワーク手法”と“農地の多面的機能支払制度”の合わせ技に特徴がある。

Q. 地域住民が活動に理解があったのか?

A. 最初は土地改良区が地域活動を行うことに全く理解なし。地域にきれいな花が咲いた結果、他所から人が来るようになって地域の誇りとなってきた。活動の継続が大事。

A. アジサイ祭りの効果?

Q. 最初は小規模。ボート下りなどメニューを増やす中で来場者が増えた。楽しさが理解され地域も経済効果が感じられるようになった。

A. 地域パトロール獣害パトロール?

Q. サルの位置情報公開(HP)で追い払いは地域に任せているがロケット花火、パチンコで追い払うこともある。

Q. 農道舗装は道路管理者の仕事ではないか?

A. 農道は農業者のもの。地域として維持活動に異論はない。

Q. 地域用水機能の活用も土地改良区の仕事?

A. 江戸時代からある土地改良区の仕事。一般的には戦後開始された。

Q. 土砂防災機能も多面に含まれる?

A. 制度として含むようにしてほしい。暮らしに役立てば地域に理解される。

Q. イワタレ草はどうやって増やす?

A. 雑草に負けるので維持管理は大変。しかし移植しなくても種から生える。

事例報告

【ゴミの縁】

報告1番目の「グラウンドワーク一宮実行委員会」の酒井さんは一宮市市街地を流れる「大江川」の成り立ちとともに最近のゴミ問題対応のために平成11年から始まった市民参加型清掃活動について述べた。地域・企業・行政の協働により通常は立入禁止の大江川水路の一斉清掃は参加者が毎回800名に及び、回収ごみの量は不燃・可燃合わせて概ね2,600kg程度である。

その結果、市街地の潤いが保たれて大江川周辺は市民の憩いの空間となっている。

Q. 活動資金手当ての工夫?

A. ロータリークラブが母体なので集めやすかった。既に定型化している。子供は金なくても楽しんでいる。しかし、桜は50年たった。桜の老化対応として植え替えを若い人に訴えたい

【ホタルの縁】

報告2番目の「内山川ホタルを守る会」の原田さんは、ホタルの生息環境づくりと次世代継承の取組について、豊橋市の内山川での活動例として放流などによるホタルの復活ではなく河川環境改善による地元自然ホタルの復活と地元小学校校長の協力を得て小学生の参加により次世代へ活動継続を図っている事例を報告した。

自然環境づくりは河川管理者とも整合をとっているが、ホタルをはじめとする生態系復活の過程では生態系の頂点がマムシとなる時期もあり一定時期立入禁止措置を余儀なくされたという珍しい事例であった。

Q. 内山川の流れは年中あるのか?

A. 水深60cm~10cm。水位が下がると水温があがる。10年前と比べると水温が上がりがり生態系が変化している。ホタルのエサは自然発生するように管理する。生態系の頂点はマムシなのだがやむを得ない。

Q. タイムカプセル?

A. 子供が絵を描いたことがあったのでタイムカプセルを思いついたが、将来もあけることはないで覚えておくように伝えている。歴代校長にも引き継がれている。

【イノシシの縁】

報告3番目の「NPO法人犬山里山学研究所」の福田さんは、里地・里山での人と生き物とのかかわり方について親子参加型で実施してきた①耕作地でのイノシシ獣害対策、②水田の水源ため池での外来魚対策を事例として、依然として人間と生き物との共存には至っていないが、自然環境保護による生態系の復活もみられる事例を紹介した。

Q. カタクリの植栽は可能か?

A. カタクリは種が蟻のエサになり蟻に運ばれ、自然に広がる。カタクリは花のころには30~40cm地下になるので掘り出し移植はできない。

Q. 昆虫教室のメニュー?

A. 親子里山探検会。年に6回くらい。出前講座4~6校。里山案内も実施。

【耕作放棄地の縁】

報告4番目の「沖之島環境保全会」の長谷川さんは、多面的機能支払制度を利用して農家・非農家が参加する農地・水環境の保全について紹介した。沖之島という地名から三河湾あたりを連想してしまうが愛知県あま市七宝町(名古屋市の西隣)の一地区の取り組み事例である。

この地区でも耕作放棄地、農道の手入れ不足による景観悪化、ゴミ放置問題があり、H19年度から協定で決めた20haを対象として、2,000人規模の農業者、自治会、子供会、地域住民の参加により除草、花壇整備、水路の水質・魚類調査、稲作体験を行った。その結果、小学生の通学路がきれいに整備でき、地域のコミュニティ活動が活性化するという効果が得られた。

Q. 活動プロジェクトチームの作り方?

A. 非農家退職者に呼びかけ。15人の応募があった。花壇の維持管理、イワタレ草の除草など2時間半作業。農家は自分の田優先になる。作業後の話し合いが楽しみにもなっている。

【かいどりの縁】

報告5番目の「有脇の農地・水・緑を守る会」の石川さんは、愛知県半田市の有脇地区の農業用ため池が農家減少、高齢化によりゴミの不法投棄増加により池が荒廃しているという問題に対して、多面的機能支払制度を利用してH19年度から「池のかいどり」(干しあげ、かいぼりなどと呼ばれることもある)を地域イベントとして行い池の機能・環境を回復するとともに、遊休農地を再生し花畑、そば・菜の花栽培などの事業を行うことにより、地域住民の憩いの場提供、そば打ち体験、健康ウォーキングルート整備などで毎年子供を含め参加者を増やしている。

Q. 役員の年齢層?

A. 平均70歳の非農家。65以上の年金生活者が多い。

Q. 活動継続のコツ?

A. 耕作放棄地再生が評価された。子供参加で注目された。COP10でため池サミット発表。女性参加かいどり、ぼんおどりなど農業者以外の各団体の取り込み。

Q. 女性取り込みのコツ?

A. 役員の奥さん、JA役員の奥さん狙い。

Q. 多面活動の課題?

A. 若い層への引継ぎ。

【まとめ】

農水省多面的期の支払い室長 豊さん

- ・多面現場継続のためには子供など若い層巻き込みが継続のカギ。女性参画についてこれまでの助演から主演へ変えるべき。現場は男が多いが共同活動は女を増やしたい。役員に女を2人入れる。だめなら役員会に奥さんを連れてきてもらう。
- ・世代交代について、現状57%の団体が10年以上リーダー交代なし。非農家などにこちらから話をかける必要がある。多くの人は自分からは出てこない。
- ・防災制度化要望について、災害復旧事業利用を進めて欲しい。多面の規模では役所に相談する前に復旧作業してよい。
- ・多面は農地がないとできない。GWは制約なし。両者の連携は農地・水路・環境の介在が前提。地域運営組織は必要。立梅のような高齢者見回り、弁当配達、病院連れ出しは多面制度ではできないが地域組織としては自発的にできるのでぜひ手を出してほしい。

司会(竹谷グラウンドワーク東海理事長) 活動の見える化が活動の持続、世代継承のために大事。

現地視察

2月3日(土)愛知県豊橋市内現地視察。「内山川ホタルを守る会」、「津田地域環境保全会」を視察しました。寒風の中、熱心な意見交換ができました。

写真左-内山川ホタルを守る会~手前が内山川。溶岩パネルが張ってある。



写真右-津田地域環境保全会~説明者後ろは耕作放棄地を復活させた所